

参考資料

長 浜 市 高 齢 者 の 状 況

資料⑦- 1

R5.5.1現在

年齢別人口(長浜市住民基本台帳より)

(単位:人)

	人口	人口比率	男性人口	女性人口
長浜市総人口	114,499		56,075	58,424
40歳以上の者	71,053	62.06%	33,528	37,525
50歳以上の者	55,596	48.56%	25,664	29,932
60歳以上の者	40,201	35.11%	17,886	22,315
65歳以上の者	33,276	29.06%	14,581	18,695
70歳以上の者	26,541	23.18%	11,281	15,260
75歳以上の者	18,265	15.95%	7,307	10,958
80歳以上の者	11,963	10.45%	4,416	7,547
90歳以上の者	2,754	2.41%	763	1,991
100歳以上の者	108	0.09%	10	98
世帯数(世帯)	47,509			

高齢化率 29.06%

高齢化率の推移

R4.5月	R4.6月	R4.7月	R4.8月	R4.9月	R4.10月
28.88%	28.87%	28.87%	28.88%	28.89%	28.90%
R4.11月	R4.12月	R5.1月	R5.2月	R5.3月	R5.4月
28.89%	28.89%	28.91%	28.93%	28.96%	29.05%

※網掛け表示の月が1年前になります

高齢者人口の比較

(単位:人)

	総人口	65歳以上人口	高齢化率	備 考
国	124,947,000	36,236,000	29.00%	R4.10.1現在 総務省「人口推計」
県	1,408,193	374,114	26.83%	R4.10.1現在 滋賀県総務部推計
湖北(2市)	149,132	43,840	29.83%	R4.10.1現在 滋賀県総務部推計
長浜市	114,499	33,276	29.06%	R5.5.1現在

※県推計高齢化率は、総人口から年齢不詳人口を除いて算出。

人口の推移(総務省「国勢調査」・直近5回)

(単位:人)

	H12	H17	H22	H27	R2
65歳以上人口	24,517	26,829	29,125	31,244	32,349
総人口	123,862	124,498	124,131	118,193	113,636
高齢化率 (%)	19.79%	21.54%	23.86%	26.90%	29.26%

※総務省「国勢調査」・長浜市住民基本台帳人口ともに、各年10月1日現在
※総務省「国勢調査」の高齢化率は、総人口から年齢不詳人口を除いて算出

介護保険認定状況

(単位:人)

	1号	2号	合計
事業対象者	68		68
要支援1	769	10	779
要支援2	996	27	1,023
要介護1	1,291	12	1,303
要介護2	1,217	26	1,243
要介護3	927	15	942
要介護4	737	15	752
要介護5	560	17	577
合 計	6,565	122	6,687

※介護保険事業状況報告R5年3月分より(該当月の2か月前報告分)

※事業対象者はR5年5月1日現在をシステムより抽出

女性最高齢	105
男性最高齢	102
平均年齢 (男・女)	47.3
	45.6 49.1

※長浜市住民基本台帳より

人口の推移(長浜市住民基本台帳人口・直近5年間)

(単位:人)

	H30	R1	R2	R3	R4
65歳以上人口	32,785	32,920	33,163	33,301	33,335
総人口	118,659	118,007	117,116	116,087	115,358
高齢化率 (%)	27.62%	27.89%	28.32%	28.69%	28.90%

長浜市地区別高齢化率

※長浜市住民基本台帳より

資料⑦-2

令和5年5月1日現在

(単位:人)

地域・地区・連合自治会	人 口			65 歳 以 上 人 口			高 齢 化 率
	男	女	計	男	女	計	
長浜地域	30,139	30,818	60,957	6,676	8,585	15,261	25.04%
長浜まちなか連合自治会	4,073	4,629	8,702	1,202	1,668	2,870	32.98%
旧第1連合	682	843	1,525	208	308	516	33.84%
旧第2連合	180	230	410	56	95	151	36.83%
旧第3連合	208	254	462	75	97	172	37.23%
旧第4連合	313	337	650	89	133	222	34.15%
旧第5連合	634	706	1,340	194	259	453	33.81%
旧第6連合	231	270	501	77	127	204	40.72%
旧第7連合	1,214	1,300	2,514	284	379	663	26.37%
旧第8連合	216	232	448	96	104	200	44.64%
旧第9連合	395	457	852	123	166	289	33.92%
六荘連合	7,225	7,399	14,624	1,295	1,679	2,974	20.34%
南郷里連合	5,376	5,298	10,674	1,208	1,462	2,670	25.01%
神照連合	10,003	9,923	19,926	1,907	2,404	4,311	21.64%
北郷里連合	1,949	1,921	3,870	569	705	1,274	32.92%
西黒田連合	968	1,064	2,032	315	433	748	36.81%
神田連合	545	584	1,129	180	234	414	36.67%
浅井地域	6,012	6,390	12,402	1,563	1,970	3,533	28.49%
湯田連合	3,025	3,217	6,242	578	748	1,326	21.24%
田根連合	703	736	1,439	273	330	603	41.90%
下草野連合	1,173	1,194	2,367	274	327	601	25.39%
七尾連合	597	654	1,251	215	263	478	38.21%
上草野連合	514	589	1,103	223	302	525	47.60%
びわ地域(びわ連合)	3,033	3,284	6,317	1,013	1,267	2,280	36.09%
虎姫地域(虎姫連合)	2,287	2,412	4,699	686	908	1,594	33.92%
湖北地域	3,837	4,042	7,879	1,129	1,424	2,553	32.40%
小谷連合	926	981	1,907	313	396	709	37.18%
速水連合	1,701	1,814	3,515	444	555	999	28.42%
朝日連合	1,210	1,247	2,457	372	473	845	34.39%
高月地域	4,565	4,786	9,351	1,293	1,623	2,916	31.18%
富永連合	756	802	1,558	240	292	532	34.15%
高月連合	2,413	2,465	4,878	580	735	1,315	26.96%
古保利連合	734	797	1,531	265	324	589	38.47%
七郷連合	662	722	1,384	208	272	480	34.68%
木之本地域	3,022	3,293	6,315	1,068	1,382	2,450	38.80%
杉野連合	181	214	395	99	128	227	57.47%
高時連合	468	514	982	200	243	443	45.11%
木之本連合	1,930	2,091	4,021	592	815	1,407	34.99%
伊香具連合	443	474	917	177	196	373	40.68%
余呉地域(余呉連合)	1,287	1,459	2,746	517	699	1,216	44.28%
西浅井地域(西浅井連合)	1,699	1,846	3,545	611	787	1,398	39.44%
その他	194	94	288	25	50	75	26.04%
合 計	56,075	58,424	114,499	14,581	18,695	33,276	29.06%

大往生ゲーム

1

©Yamaoka

大往生ゲーム ゲームの目的

◆内容

- 60歳からスタートし、100歳を目指して生きていく。
加齢とともに自分の「大切なこと」を失う場合もある。
最後まで自分が残したい「大切なこと」「人生最期の目標」は何？

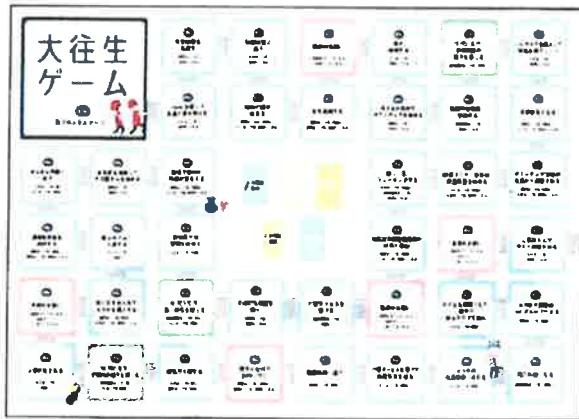
◆ゲームをとおして…

- 60歳からの人生の疑似体験
 - 自分のこれからの生活をどういう風に過ごすか？
今からできることは？
- 人により異なる「大切なこと」の感覚
 - 価値観の違いを知る
- 自分の家族や地域の高齢者の様子は？
 - その人はどんな思いで毎日を過ごしているのだろうか…

2

©Yamaoka

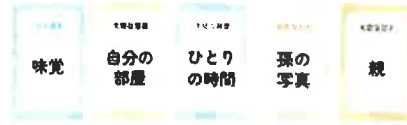
ボードゲーム盤 (×1点)



人生の目標カード (記入済×14種類、白紙×6枚)



大切なことカード (5カテゴリー×10種類)



順番シート (×1点)



コマ



サイコロ (×2個)



©Yamaoka

3

大往生ゲーム ゲームの流れ

◆準備

1. 「人生最期の目標」カードをランダムに一人3枚ずつ配ります。
※カードが足りない時は、白紙カードに記入(付箋に書いて貼る)
2. 自分が最も叶えたい「人生最期の目標」を一つ選びます。
※他のプレイヤーには教えないでください!
3. 「大切なこと」カードを一人10枚ずつ配ります。
(5カテゴリー×ランダム2枚)
4. 「人生最期の目標」を達成するために、「大切なこと」の中で必要なものを考えてください。

◆ゲームスタート!

5. あなたは現在60歳です。100歳を目指してすごろくを巡ります。

6. 水色・ピンクのマス目 → 止まったら指示に従う

緑のマス目 → 出た目に関係なく、全員、そのマス目に止まり、指示に従う。

※カードを失う時は失った順番がわかるように、「順番シート」に入れます。

7. 誰か一人が100歳になるか(100歳のマス目を通り過ぎる)、誰か一人の順番シートが埋まったら、ゲーム終了です。

5

©Yamaoka

◆議論タイム

8. 各プレイヤーが最初に選んだ「人生最期の目標」を推理します。

※最初に配られた3枚の「人生最期の目標」と「順番シート」を見せてOK!

9. 感想共有

6

©Yamaoka

ゲームを体験して、いかがでしたか？

資料⑦-4

長浜市「高齢者実態調査」のアンケート結果（令和4年度実施）

I 調査手法

1. 目的

第9期ゴールドプランながはま21（長浜市介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画）を策定するにあたり、介護や高齢者福祉等について現状を把握するため。

2. 対象

市内にお住まいの65歳以上の方（無作為抽出）。有効回答数 5,052 人

3. 調査方法

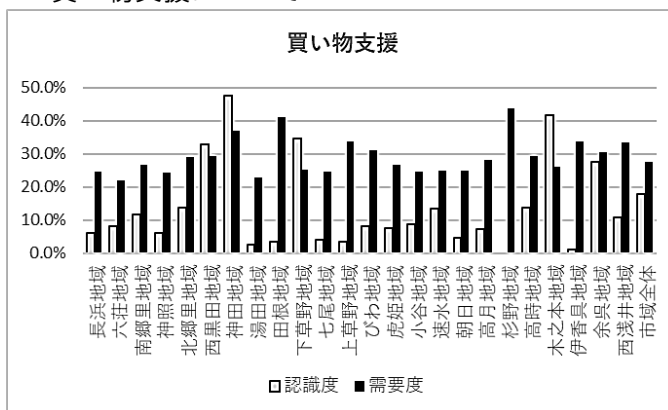
無作為抽出者へのアンケート方式

4. 調査時期

令和4年12月～令和5年1月

II 調査結果①

1. 買い物支援について



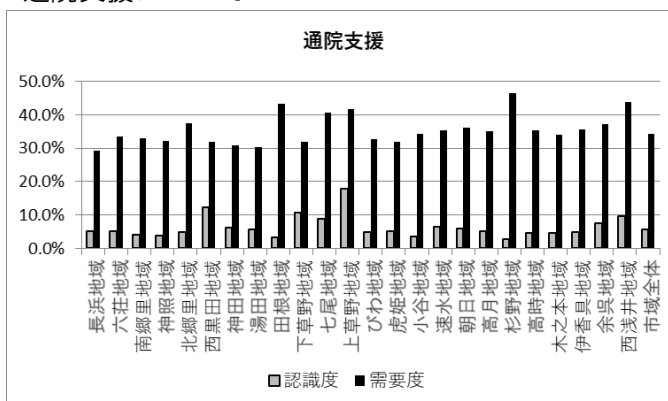
・認知度は特に西黒田、神田、木之本地区が高い。

⇒買い物ツアーや個人商店の移動販売がある

・需要度は特に田根、杉野地区が高い。

※コープあったか便が開始されるまでにとったデータである。

2. 通院支援について



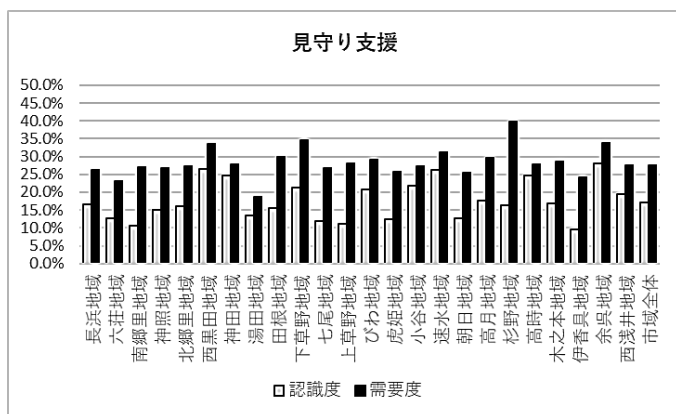
・認知度は特に西黒田、上草野地区が高い。

⇒生活支援ボランティアの取り組みがある。

・需要度は特に田根、杉野地区が高い。

・どの地域も需要度と認識度の差が大きい。

3. 見守り支援について



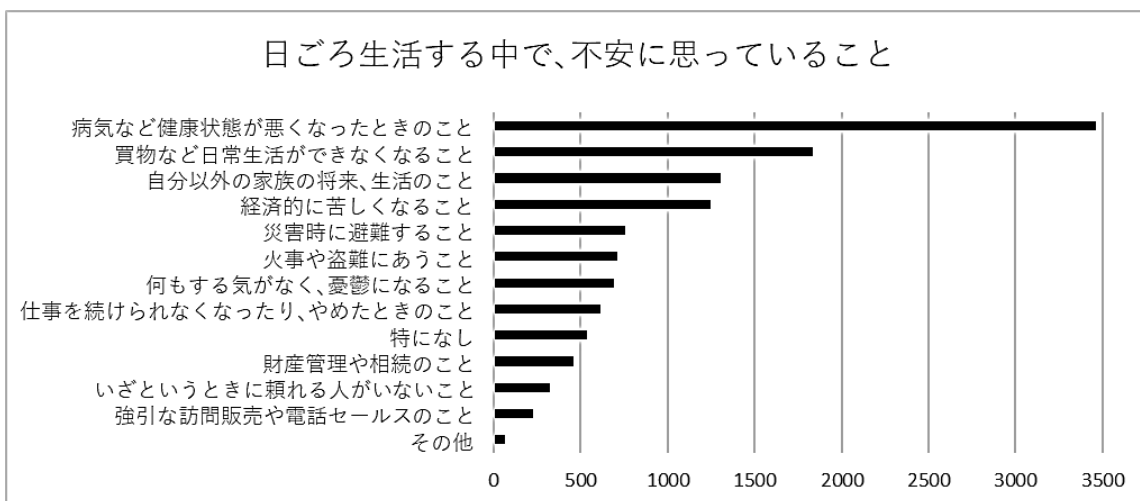
- ・ 認知度に関して、20%に満たない地域が多い。
 - ・ 需要度に関して、30%に満たない地域が多い。
- ⇒ 認知度も需要度も上げていく必要がある。

4. 調査結果1～3より

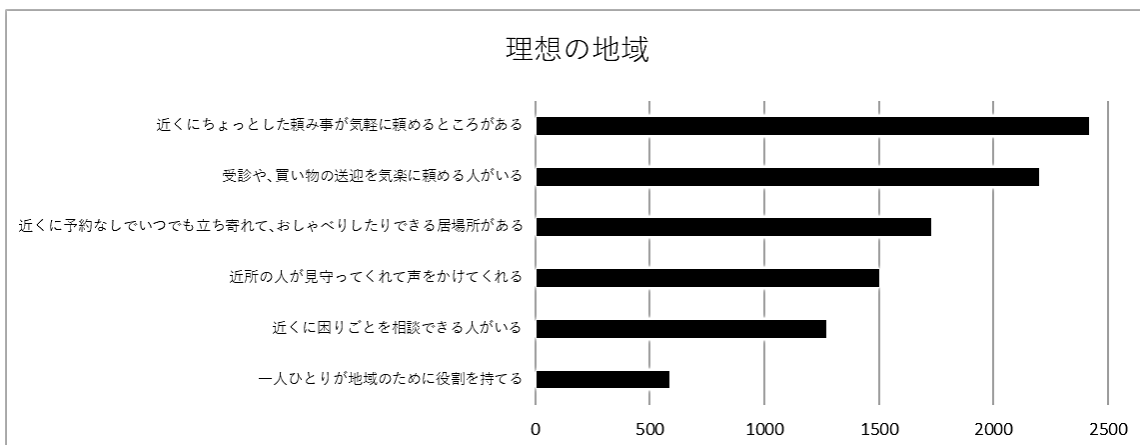
- ・ 高齢者の生活にとって、外出・移動は大きなバリアとなっている。
- ・ かなり多くの項目で 認知度<需要度 の状況である。
- ・ 市街地内において、割合としては低いですが、実数としては多いと考えられる。

III 調査結果②

1. 日ごろ生活する中で、不安に思っていること

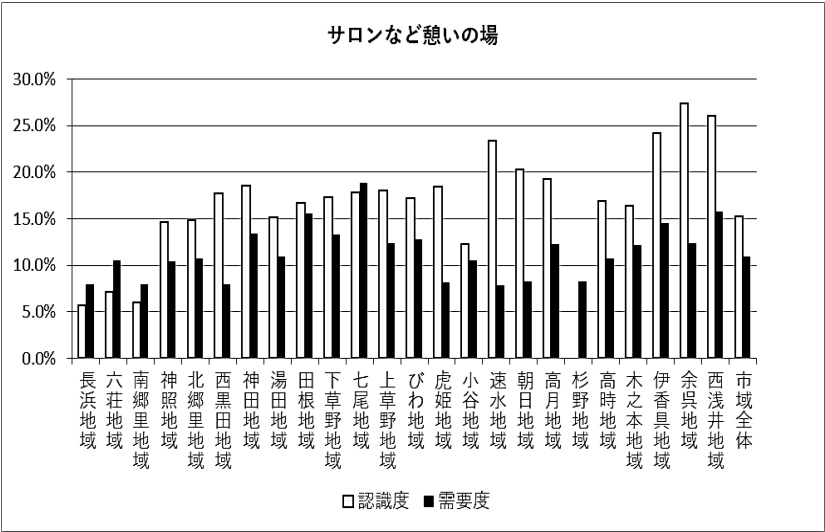


2. 理想の地域

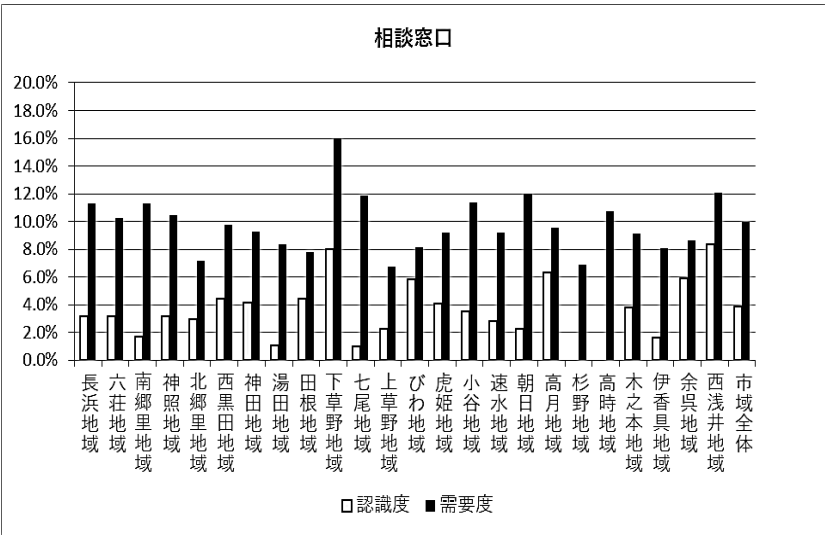


IV 調査結果③

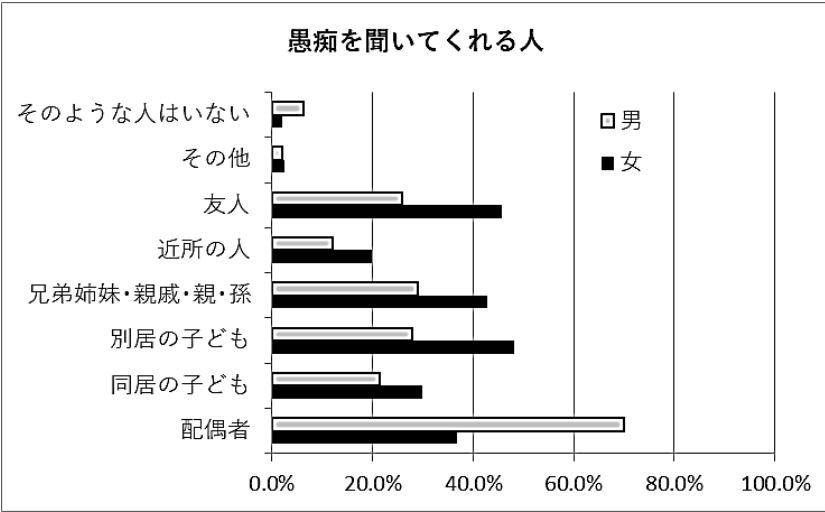
1. サロンなどの憩いの場



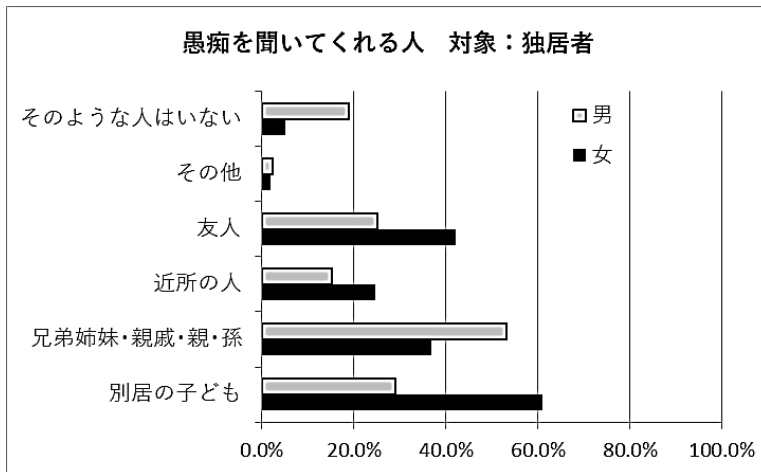
2. 相談窓口



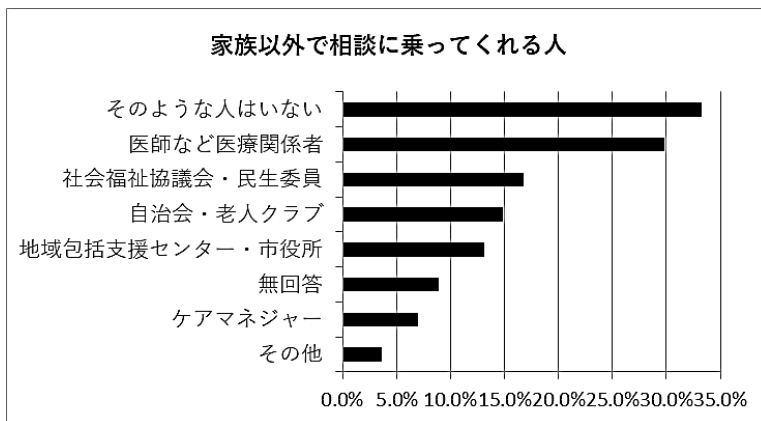
3. 愚痴を聞いてくれる人



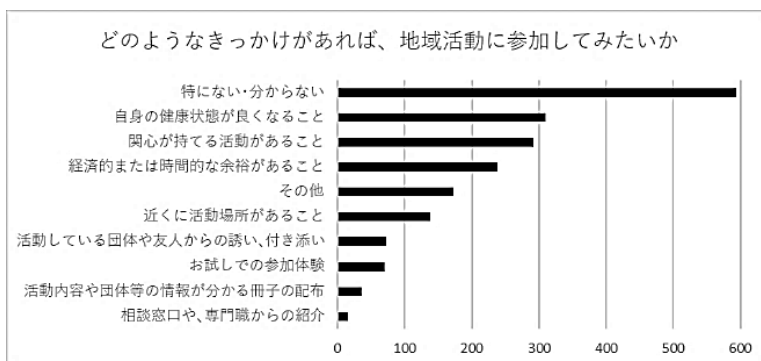
4. 愚痴を聞いてくれる人 対象独居者



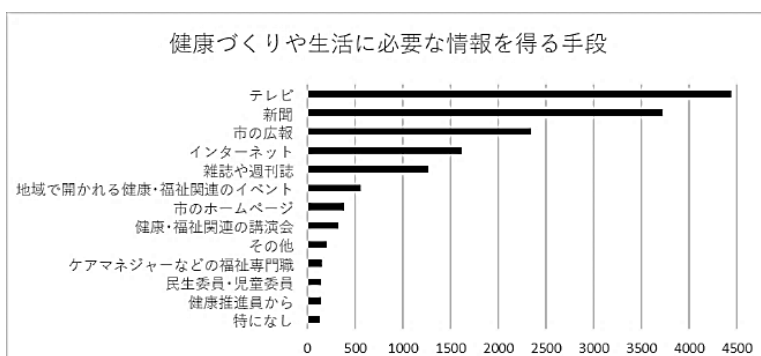
5. 家族以外で相談に乗ってくれる人



6. どのようなきっかけがあれば、地域活動に参加してみたいか



7. 健康づくりや生活に必要な情報を得る手段

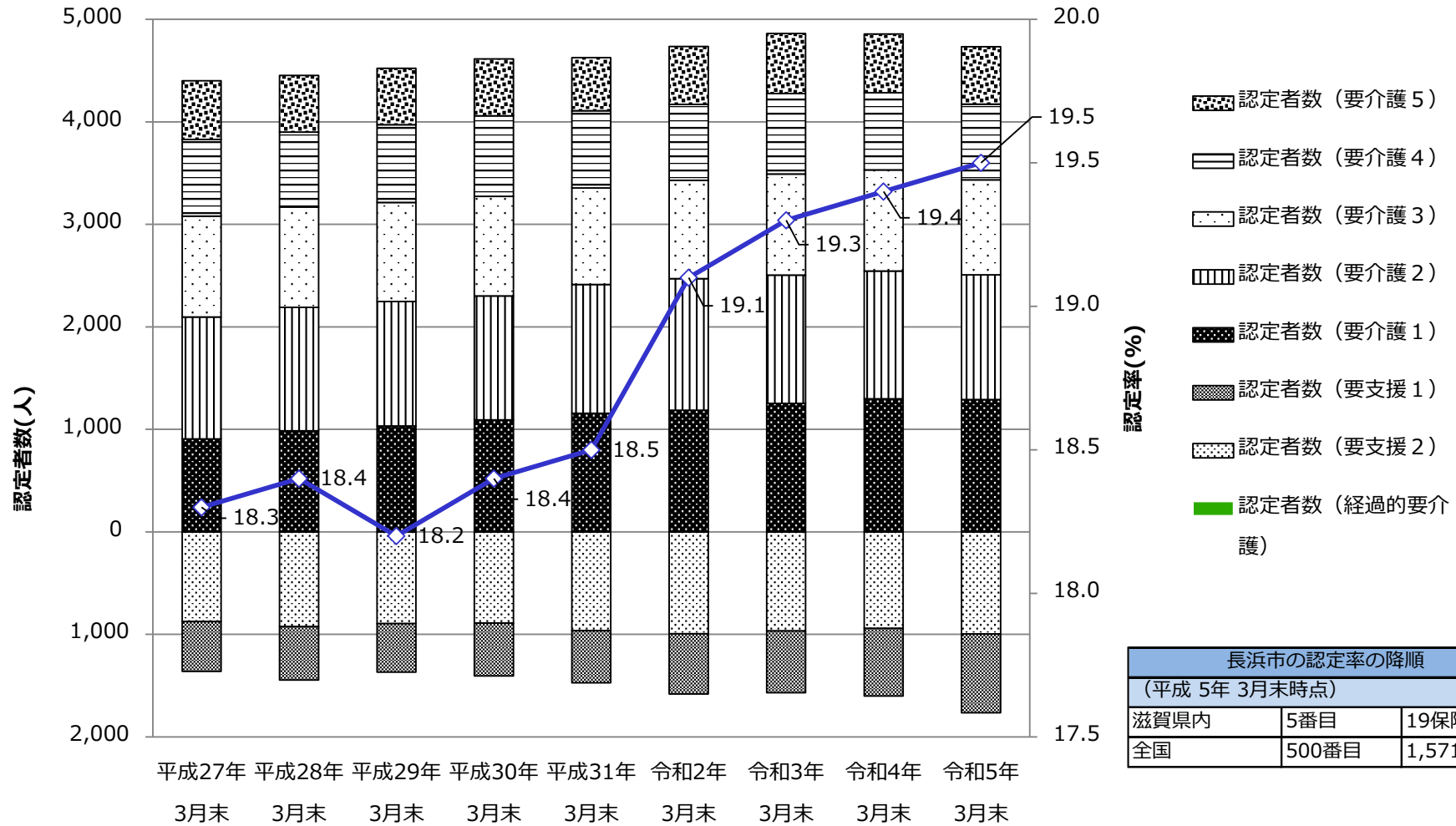


項目	意見	現状	こんなことできるかな？ すでにやっているよ。
■第1層の役割	①第2層の活動よくやっている、広くお知らせする必要があるのでは。 ②地域マップの作成（資源の有無、課題） ③高齢者の定義 変化の周知 （いつまでも働く、役割をもつ、支え手として、声かけ会える関係構築）	① 社協だよりで周知・成果の報告を行っているが、生活支援 C0 の成果をもっと、わかりやすくアピールする必要がある。 ②長寿推進課と協働しながら、地域資源の収集・マップ化を行っているが、非公開を望まれる事業所が多いため、支援者間での情報共有を目指している。 ③全国では、2011 年に 65 歳～69 歳の就業率が 50%を超えた。仕事に生きがいを求める割合が増える中、地域への関心・つながりは薄れる傾向にあるという。	①市広報や社協作成のチラシに、活躍している人を掲載してもらう。（EX「ながおし！」長浜市で推したい人の紹介） ②一般公開用として「長浜市生活支援情報『ながはま お助け帳』」を作成。また、非公開情報として支援者間でも地域資源情報共有を図っている。 ③様々な題材をとおした支え合い活動の啓発を実施
■第2層の団体活動の横展開	・地域の活動を知り、同じような活動が他の地域でも広がるとよい。	・まず、生活支援 C0 の人材育成に注力しており、地域の課題の洗い出し・活動内容を進捗管理シートで言語化することにより、他の C0 の気づきを促し、地域に提案・還元できるよう努めている。	・福祉関係者の人材育成として、意見交換やグループワークを主とした、社協主催の研修会へ参加いただいている。
■第2層の団体活動の困りごと	①病院送迎に個人の車を使用しているため、個人の車以外の活用や保険等が必要 …今は家族に納得してもらっての利用 ②会員の高齢化のため依頼される仕事ができないものがあり、請負う仕事を限定する必要がある。 ③訪問先で緊急対応が必要だった場合があったので、その場合の対応を理解しておく必要がある。 ④地協と活動団体との連携ができておらず、どのように活動をすすめてよいかわからない。	①社協所有の車両を貸出している（ハイエース・車いす対応車両等）が、社協へ車を借り出し・返却に行く手間が生じる。 ②生活支援ボランティア団体では、一般的に 30 分前後の仕事を原則とされているが、地域事業により 1～2 時間と設定せざるを得ないところもある。 ③民生委員とケアマネがつながる事業や地域包括支援センターの周知を行っているが、浸透していかない状況。 ④生活支援 C0 が仲立ちをしている地域がほとんどであるが、各団体の思いや主点が合わないため、調整が難しい地域もある。	①社協 福祉車両・日常生活支援活動車両活用事業 デマンドタクシーの区域外停留所が増設され、R5.6.1～実証運行（びわ・浅井・湖北）が開始されている。 ②本市では 15 地域中 8 団体が生活支援活動を、自治会単位でも取組まれるところが増えてきている。 ③利用者さんや家族、支援者と日ごろから対応を決めておく。団体でいざという時の対応を決めておく。 ④まず、身近で関心の高いテーマ「防災」を題材に、まずは集まる機会を設けている。

項目	意見	現状	こんなことができるかな？ すでにやっているよ。
■認知症のある人を地域で見守るための情報共有	①認知症のある人の情報を地域でどう共有して どう見守るか ②地域の見守りの力はさまざま	・家族の了解が必要 ・個別ケア会議の家族参加してもらえば。 ・見守り支え合いへの登録 ・認知症を学ぶ機会を自治会でもつ	①認知症への理解を深める活動を継続 認知症サポーター養成 認知症のある人本人の意見をいう場 面の設定 ②見守るだけでなく、地域できることを 考える。
■地域の居場所づくり	・介護保険のサービスを受けなくても、地域で 居場所があればよい。	・サロン、転倒予防教室、まちづくりセン ターの趣味団体、これまでからのつなが り。 ・老人クラブの入会数が減少、就労期間の 延長 ・退職後の男性が地域のサロンや転倒予 防教室になかなか入れない ・サロンや転倒予防教室は新規参加者少 ない、声をかけてもなかなか入らない ・シニアの世代間の感覚や価値観が急激 に変化している。アクティブシニアへの 働きかけにも差が必要になって生きて いる。 ・田畑で作業する人はいる	・地域の団体と地域をベースにしていな い団体の紹介 ・退職後の地域デビュー支援 →神田・びわにおける退職者世代を対 象とした社会参加の取り組み。 ・男性に特化した集まりをつくる →男性サロンの取組み(木之本町千田) ・試みとして、速水自治会館をミニ公民 館化し、多くの世代が集まれる仕組み づくりが始まっている。 ・田畑がない時期の活動として、オンラ インサロンの取組み。家庭で継続でき る体操、サロン閉鎖時における交換日 誌の活用
■健康づくり	・若いうちからセルフケアの意識を高める、そ れがないと要支援になると転がるように悪化 する。 ・児童生徒の時期から、フレイル予防や福祉教 育を進めていく必要がある。	・大型小売店の空きスペースを利用した、 体力測定やデジタルチェックなどの健 康づくりについて啓発をしており、多く の方に関心を持っていたいっている。 ・さらに多くの方に参加いただくには、地 域ぐるみで取り組む仕掛けなどが必要。	・現役世代からの健康づくり ・企業と連携した体力測定やデジタルチ ェックなどの健康づくり啓発 ・浅井や余呉など健康ウォーキング、体 力測定など地域での実施を支援 ・児童生徒と高齢者が関わる機会の設 定
■エンディング、自分の最 期をどうしたいかの意 思表示		・本人、家族共に切り出しにくい話題であ る。 ・身寄りのない方の支援が困難	・自分がどう生きたいか考える機会・家 族と話をする機会の設定、話をするた めのツールの活用(地域すくろく「大 往生ゲーム」)
■移動サービスの連携	・子どもの部活動の送迎と高齢者のサービスの 送迎とのコラボ 子どもの部活動の送迎と高齢 者のサービスの送迎とのコラボ	・社協をはじめ、保有車両の貸し出しを行 っている法人はあるが、運転手は利用者 側で供出ししなければならない。 ・運転手は介護職員が兼務したり、送迎時 間帯だけの雇用が現状である。	・デマンドタクシー等、既存の公共交通 機関の啓発・利用促進
■認定数の変化	・コロナで認定数がどう変化したか	・コロナ前後で、認定率が変化した等の有 意な数字は得られていない。	・コロナ禍、地域包括支援センターに寄 せられた介護等の相談等は減少して いる。

資料⑦- 6

長浜市の要介護（要支援）認定者数、要介護（要支援）認定率の推移



長浜市の認定率の降順		
(平成 5年 3月末時点)		
滋賀県内	5番目	19保険者
全国	500番目	1,571保険者

「認定率」は、第1号被保険者に占める要支援・要介護認定者の割合を意味します。